

読んで、「イメージする」って、どういうことだろう

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ 俵 万智

あなたは、この短歌を読んで、どんな場面をイメージしますか？

背景は？ → 場所は？ 季節は？ 時刻は？ 天気は？ どんな音が聞こえるか？

人物は？ → どのような人？ どんな関係？ どんな表情？ どんな声？ どんな気持ち？

Aさん

ずいぶん日が短くなった十一月の夕暮れ。高校の門の脇で、楽しそうにおしゃべりをしている女子生徒三人。突然、木枯らしのような冷たい風が吹き抜ける。三人は、同じような格好で肩をすくめ、身を寄せあう。「寒いね」と一人がつぶやくように言うと、二人も声をそろえて、「寒いね」と答える。「駅前のミスト、寄つていこうか」、「賛成！」。

Bさん

クリスマスイブ。ジングルベルが流れるにぎやかな街を、一人の若い女性が歩きながら、去年のクリスマス思い出している。あの頃は、いつも隣に彼がいた。でも、今は一人。「寒いね」と話しかければ、「寒いね」と返してくれる人のいることがどんなに幸せなことが、その思いをかみしめながら、彼女は一人、街を歩いている。

Cくん

東北の早春の朝。まだまだ朝晩の冷え込みは厳しい。ある町外れに立つ山小屋風の家で、初老の妻がストーブに火を入れる。起きてきた白髪交じりの夫が、「まだまだ寒いな」と話しかけると、「寒いわね」と妻が答える。子どもたちはみな独立し、夫婦二人だけが残った。それでも、こうしてことばをかわし合える相手がいることの幸せを、一人でしみじみと味わっている場面。

Dくん

冬の朝、ビジネスコートを着た若い父は、ママチャリの後ろに三歳の息子を乗せて保育園へ向かう。思わず、「寒いな」とつぶやくと、後ろの息子が「ちやむいね」と言う。「そうだね、寒いね」と答えて父は笑い、息子の存在を限りなくいとしいと思う。

〈イメージする学習のポイント〉

- ① 短歌の意味は正確に理解する。→まちがった理解に基づくイメージは×。
- ② その上で、場面を自由にイメージしてみる。そこに自分のものの見方や個性が表れる。
 - ・ まずは一場面(カットイメージ)でとらえる。その場面を生き生きとイメージする。
 - ・ 一場面を押さえてから、背景にイメージを広げてもよい(物語作りに走らない)。
- ③ また、他人のイメージを聞いたり読んだりして、いろいろな見方があることを楽しむ。
- ④ 作者についての情報を得て、イメージを深めることもできる。→これが正解というわけではない

まあ、あなたも、自由にイメージを広げて、文章を書くことを楽しもう！

短歌鑑賞文を書く（2）

共感する短歌を見つけて、場面を「イメージ」してみよう

東洋大学主催 現代学生百人一首コンテスト入選作から

作成者注 ここでは生徒が共感しやすい高校生の短歌を一〇首選んで載せます。
次のページを参考にしてください。 <https://www.toyo.ac.jp/site/issyu/winning.html>

① 短歌

作者名

② 短歌

作者名

③ 短歌

作者名

④ 短歌

作者名

⑤ 短歌

作者名

⑥ 短歌

作者名

⑦ 短歌

作者名

⑧ 短歌

作者名

⑨ 短歌

作者名

⑩ 短歌

作者名

短歌鑑賞文を書く(3)

年 ホーム 氏名

自分のイメージを「とびにしよう」／お互いのイメージを楽しもう

○共感できる短歌を選んで写し、心に浮かんだイメージを書きなご。一つでもだらもう一つ

短歌・作題名(新校名不載)

短歌・作題名(新校名不載)

〈メッセージ欄〉先生の指示に従って作業しよう。

| | | |
|-----|---------------------------------|-----------|
| 一人目 | いよいよ探し(つらさの感想) + 質問(イメージを広げる問い) | ペンネーム () |
| 二人目 | いよいよ探し(つらさの感想) + 質問(イメージを広げる問い) | ペンネーム () |
| 三人目 | いよいよ探し(つらさの感想) + 質問(イメージを広げる問い) | ペンネーム () |

イメージで読む 「鑑賞文」の書き方

文章を書くとき、私たちは心にイメージを思い浮かべ、そのイメージをあれこれいじりながら、感じたり、考えたりする。すると、文章の中心となるアイデアが見つかる。書きたい気持ちもわいてくる。

そのために、短歌を材料にしてイメージし、それをことばにする学習にまず取り組んだ。さらに、自分の考えや感想を付け加えて、「鑑賞文」にしてみよう。

これは、あなただけの貴重な作品になる。

次の手順で、イメージ（心の中の情景）と感想・意見を区別して、鑑賞文を書いてみよう。

鑑賞文を書く手順

① イメージを書く

「この短歌を読んで、こんなイメージが浮かんだ。」で書き始める。
(心に浮かぶイメージを具体的にことばでスケッチする)。

次に、段落をあらためて

② 感想・意見を書く

「この短歌について、こう考えた。」で書き始める。
(立場を変えて、評論家になる。短歌作品を客観的に分析する)。

〈具体例〉

今日までに私がついた嘘なんてどうでもいいよというような海

俵 万智『サウダ記念日』

| | |
|------------------|--|
| イ メ ー ジ | <p>この短歌を読んで、こんなイメージが浮かんだ。山あいを走るローカル線の列車の中。デニム地のワンピースを着た二十歳くらいの女性が、ボックス席に一人、窓辺に頬杖をついている。山の木々は紅葉が始まっているが、彼女の瞳はうつろで、風景を楽しみお様子はない。やがて列車は谷間を抜け、一気に海の展望が開けた。青空のもとに広がる紺碧の海。彼女ははつとして身を乗り出した。いたたまれないように窓を開けた。潮風が彼女の頬を撫で、髪をなびかせる。全身に解放感が広がり、瞳が生き生きと輝く。都会の日常に疲れて旅に出た彼女の心を、一気に癒してくれる海の風景だった。</p> |
| 感 想 | <p>この短歌について、こう考えた。嘘はいけないというけれど、嘘をつかない人はいないし、嘘をつかずに生きていくこともできない。小さな嘘については、心がちくちく痛んで、それもだんだん鈍感になって、人は大人になっていく。そんな後ろめたさを引きずった心を、さあど洗い流してくれるような海のでつかぎ。自然の前には、誰も許されて、純粋な自分に帰れる気がする。そんな思いを詠みながら、青く広い海を見事に眼前に描き出してくれる歌である。</p> |

(山崎) 約四七七字

